



令和5年度総会
水屋



令和5年度総会
お点前



駿府各流大茶会
受付



駿府各流大茶会
水屋



静岡茶講座



お茶摘み体験



令和5年度総会



静岡茶講座
お茶菓子と煎茶



お茶摘み体験



鰐付風文鎮作り



鰐付風文鎮作り

日頃より皆様におかれましては青年部へお心を寄せていただきまして、感謝申し上げます。

この度、表千家静岡県青年部部長を務めさせていただくことになりました。偉大な先輩方から引き継いだ部長の任に責任を重く感じております。

世の中は、新型コロナウイルス感染症の流行、世界情勢の悪化等と不透明な状況が続いております。そのなかで青年部の活動を皆様にいかにつけていただき、参加していただけるかが大きな課題となっております。

茶道を勉強する若者が集まり、日ごろのお稽古以外に同世代の仲間と交流できる場所として青年部があり続けられるよう、役員一丸となって創意工夫していきたいと考えております。私自身も青年部の活動に参加させていただき、同じ世代の仲間ができました。共通の行事、体験を通してお互いに助け合い、切磋琢磨できる青年部は、私にとってかけがえのない居場所のひとつとなりました。次の世代の皆さんにも青年部の魅力を感じていただき引き継いでいけるように精進してまいります。

同門会の先生方、青年部のOB・OGの皆様方におかれましてはご迷惑をおかけすること多いかと存じますが、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

表千家静岡県青年部 部長

大石桂子

令和5年度総会・記念講演会・懇親会

令和5年6月10日(土) 清水テルサ(静岡市)

近年、茶会を自粛する情勢でありましたが、令和5年度青年部総会を開催することが出来ました。呈茶席は背景に駿河湾を臨む立礼席、掛け軸は「緑水青山」、主茶碗に不二ノ画の大樋、波水指をあわせた静岡らしい席となりました。

講演会は聴雪窯、大井沢焼の土田健先生をお迎えしました。12代茶入袋師照雪友湖の次男であり、登り窯で作陶する陶芸家として活躍しています。先生は京都出身ですが山形県の西川町へ移住し開窯するという経験を持ちです。東北の豪雪地帯へ移住の体験談、陶芸家への道のり、現在の活躍を拝聴しました。

余談ではありますが、フランスから山形県に移住した知人を訪ねて今年の夏、個人的に山形を訪れました。「ところ変われば」という言葉がありますが、その場所に至る道筋においても感じるものがありません。日々お稽古をしていますが、目指すところがどこなのか、目指したから到達するのか、日々の経験から見えてくるものなのか、わからないことも多いですが、時代が移っても月や風のように変わることのないものかもしれません。総会を一つの節目として、そのようなことを思いながら日々のお稽古を背筋を伸ばして望みたいと考えています。(川上正夫)



令和5年度青年部総会において第6期新役員が選任されましたので、ご報告いたします。

部 長:大石桂子

副部長:佐野純子

会 計:飯田裕子、飯田初恵

監 査:片桐真輝

幹 事:川上正夫、西澤満美、山崎圭望、遠藤大日

日頃より青年部に皆様から格別のお心を寄せていただきまして、感謝申し上げます。早いもので、平成二十九年に部長職の拝命をいただき、その間、たいへん多くの勉強をさせていただきました。また、たくさんの方の皆様にご縁をいただき、よい出逢いをいただきましたことも、有難いことでした。この場をお借りして、皆様に心より御礼申し上げます。

禅の教えに「残心」という言葉がございます。お仕事や、家庭やお茶のお稽古でも、物を扱うときや、行動について、人には、思いやりを以て接し、道具は丁寧に扱う、心を残すという、心構えと理解しています。初心は誰しも、緊張したり、集中力はあるものですが、年を重ねてくると、残念ながら薄れてしまいがちであります。常に立ち居振る舞いをお稽古ではやましく言われますが、その姿が、おのずと洗練されていくためには、継続的な修練が必要となります。なかなか難しいものであります。

青年部での学びは、普段のお稽古から違った側面からいろいろな経験ができることであり、その体験が、これからの茶人としての内面をさらに奥深い世界への一歩となり、これから皆様の一助となれば幸いです。

お茶のお稽古は心を磨くことと、今に集中し、ひたすら鍛錬を続けていくことだと思います。

ここまで多くの先生方、諸先輩方のお力の賜物と、ご恩を深く受け止め、今後も微力でございますが、日々精進を重ねて参りたいと思っております。今後も青年部にならぬご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

部長退任ご挨拶

表千家静岡県青年部第四・五期部長

坂部順子

駿府各流大茶会

令和5年4月8日(土) 静岡伊勢丹(静岡市)



伊勢丹の最上階にて駿府各流大茶会が行われました。青年部は野点席を設け、多くの方に薄茶を振舞いました。当日は開会するとすぐに会場内は人に包まれ、野点席も満員に近い人がお越しになりました。一度に30名近くの方がお席に入るため、お菓子やお茶のお運びは大変でした。

同日の他のお席には裏千家、皇風煎茶禮式、黄檗弘風流が茶席を設けており、個人的に黄檗弘風流のミルクティーが衝撃でした。「ミルクティーも立派な茶文化の一つである」という高島真堂先生の解釈にとっても共感しました。私自身、これほど大きな茶会に参加する

のは初めてだったため、緊張していましたが坂部前部長をはじめ、青年部の皆様、青年部 OG の方々が優しくご指導くださり無事一日を終えることができました。今回の茶会に参加してみて、お客様をもてなすための細やかな気遣いや振る舞いに感銘を受けました。貴重な機会をありがとうございました。

(山崎佑月)



懇親会



皇茶席



皇茶席



野点席



野点席



野点席

静岡茶講座 初回 座学

令和5年9月16日(土) あざれあ(静岡市)



静岡市葵区梅ヶ島に茶園があります空洞庵 前田哲男先生を講師にお招きして、日本在来茶についてと煎茶の淹れ方をご講演いただきました。

在来のお茶の歴史、品種改良、栽培方法について、とても興味深いお話を拝聴しました。その中で、お茶の木一本一本に個性があり味も香りもそれぞれ異なる話が印象に残りました。次回の茶園見学では、違いを観察してみようと思いました。



静岡茶講座 第2回 茶園見学

令和5年10月15日(日) 空洞庵茶園(静岡市)

静岡市葵区梅ヶ島にあります空洞庵の茶園2か所の見学と茶摘み体験をしました。

一つ目は緩傾斜の茶園。足元は安定しているため、茶摘みに集中することができました。柔らかい新芽を摘むと清々しい香りがほのかに香り、爽快な気持ちになりました。子供たちはネット一杯に摘もうと夢中になっていました。



昼休憩をはさみ二つ目の急傾斜の茶園へ向かいました。一つ目は茶園近くまで車を乗りつけることができましたが、茶園は吊り橋を渡った先にありました。まっすぐ立ち、歩くことが精一杯、茶摘みを忘れてしまうほどの急傾斜でした。しかし、急傾斜のため日当たりが良いせいか、良い茶葉が育つのだと感じました。その代わり、急傾斜のため機械作業は困難で、手作業での手入れや手摘みとなり、大変な作業であると感じました。貴重な機会をありがとうございました。今回は屋外での活動であったため、幼児二人を連れて参加いたしました。青年部に所属する方々は小さいお子さんを抱えておられる方も多くいると思います。お子さんとご一緒に参加できる行事が増えると良いなと思いました。(山崎圭望)



鑲付風文鎮づくり

令和6年2月24日(土) 三島市民文化会館(三島市)

長野工房 長野新先生と奥様のご指導のもと、文鎮作りに9名が参加しました。
粘土の感触に懐かしさを感じながら、図案を元に抜け勾配になるよう原型を作りました。
皆さん其々の個性的な型が出来て、とても面白く思いました。
石膏が固まる間に、桃山時代からの釜の変化や価値、製鉄の
流布等を講義していただき、勉強になりました。
また、奥様お手製の釜の形をしたお菓子を頂き、楽しい
ひとときとなりました。
石膏の型が先生の手により鑄鉄の文鎮となり、手元に
届くのが楽しみです。埼玉よりお越し下さった長野先生と
奥様に、深く感謝申し上げます。(佐野純子)



制作風景



制作風景



制作風景



制作風景



長野夫人お手製
釜のお菓子



石膏と粘土

令和6年度 行事予定

青年部会員の他に
賛助会員が参加可能です

駿府各流大茶会 野点席

2024.4.14 (日)

〔場所〕 静岡伊勢丹
静岡市

季節の和菓子作り

2024.10月

〔場所〕 未定

総会・記念講演会

2024.7.27 (土)

竹芸家 池田瓢阿 先生

〔場所〕 松韻亭
浜松市

柿傳マナー教室

2025.2月

〔場所〕 京懷石 柿傳
東京都新宿区

青年部入部について

青年部では入部希望者を募集しております。皆様のお知り合いをご紹介ください。対象は18歳から45歳までです。入部申込書を下記までご請求ください。入部申込書と会費振込用紙を送付いたします。

〒417-0834 富士市西柏原新田19
佐野 純子 方 表千家静岡県青年部
電話 090-9108-1958

◎住所氏名変更届のお願い

住所氏名に変更が生じましたら、上記宛てに葉書でお知らせくださいますようお願いいたします。

なお、同門会員の方は同門会本部と青年部の両方に、ご連絡ください。

賛助会員募集



年齢46歳以上の表千家不審菴入門者は、どなたでもご入会いただけます。青年部の行事や講演会などを、ご案内させていただきます。

茶道にまつわるコラム

葵 亭

【お題：志都呂焼】

「志戸呂焼」は、昔大井川の西、金谷の宿一帯が志戸呂郷と呼ばれており、その名前をとって志戸呂焼きと名づけられました。寛永年間には、小堀遠州に好みの茶器を焼き、遠州七窯の一つに数えられました。起源については諸説ありますが、15世紀後半から栄え、陶土の性質上固く焼けるため、湿気を嫌う茶壺にも重用されました。

お問合せ

ご入会希望は右のQRコード読み取り後、画面に従ってメールを送信してください。



表千家静岡県青年部

〒420-0831 静岡市葵区水落町11-6 高山倫夫様方 表千家同門会静岡県支部内